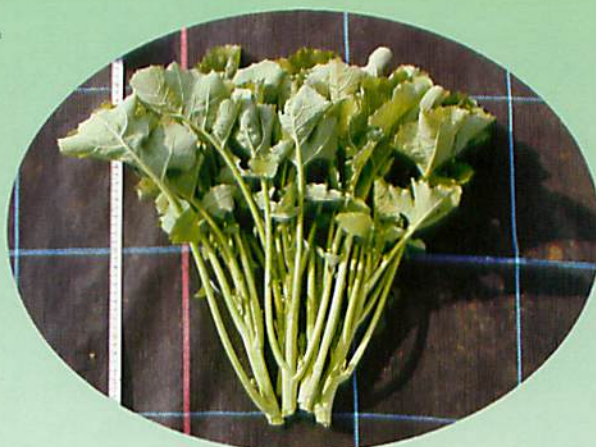


# 「のらぼう菜」在来系統の評価

～野菜作物研究部

「のらぼう菜」は、花茎を食用にするアブラナ科の野菜です。古くから川崎市多摩区菅地区で自家消費用に栽培されていました。茹であがりの色の鮮やかさ、甘味の強さ等、そのおいしさが直売所で評判を呼び、地産地消の推進品目になっています。



当所では、これまで「のらぼう菜」の特徴を調査してきましたが、引き続き連続収穫体系確立の可能性を明らかにするため、早生、中生及び晩生別に系統を分類し、それぞれの収量を3年間調査しました。その結果、収穫開始日について約20日（平成17年度）の差がある早晩生系統群（図1）のそれぞれに多収性を示す系統が存在することが明らかになりました。また、収穫開始後の花茎重の推移から（図2）、早生系統の収穫開始後約1ヶ月経過した時期に早晩系統の収穫が重複するように組み合わせて栽培することにより、2月中下旬から5月初旬までの間の連続収穫体系を確立することが明らかになりました。今後は「のらぼう菜」生産安定技術の確立に加え、優良系統の育成を行う予定です。

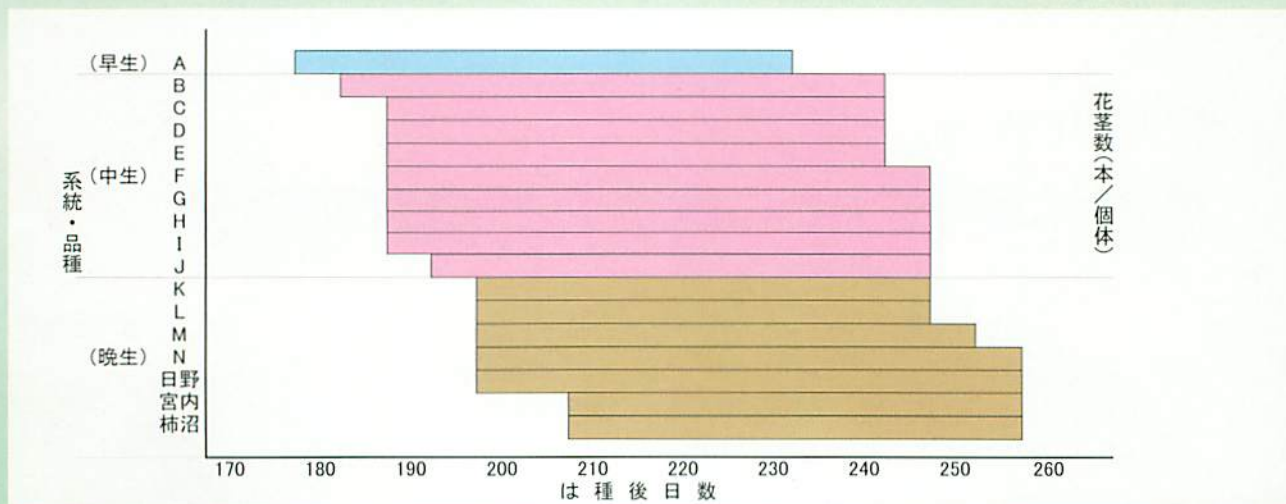


図1 のらぼう菜の系統別収穫期間 (H17)

注：播種 8月31日

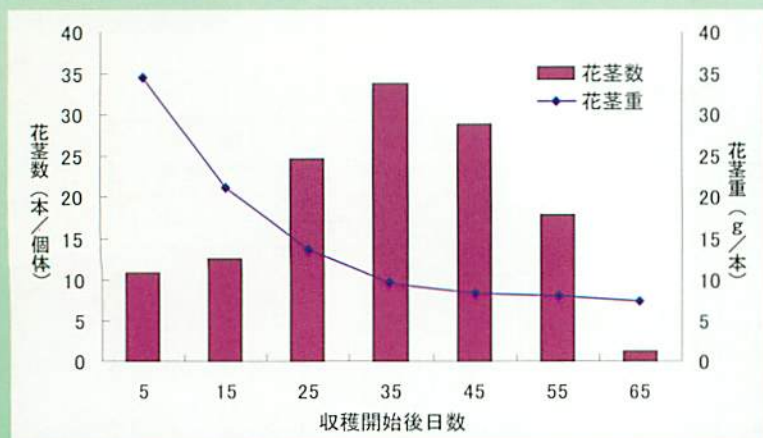


図2 収穫期間中の花茎数および花茎重の変化 (平成17年供試系統品種平均)